

## 2022・小学校中学年「111本の木」

この本をえらんだりゆうは、だからです。

この本を読むまで、男の子が生まれることと、女の子が生まれることのちがい をあまり考えたことが  
ありませんでした / 知りませんでした / がある国があることを知りませんでした。

私はこの本を読んで  
ということに おどろきました / 考えさせられました / 信じられない気持ちになりました。

なぜなら、だからです。

今の私たちの生活では男の子でも女の子でも同じように学校に行けるし、はたらくこともできます。

もし男の子だから、女の子だからといってちがいがあると、  
(違いがあることの問題点やこまったこと、悲しいこと、など) じゃないかと思いました。

私は男の子と女の子を同じようにくらせる国は (よい点、うれしいこと、みんなのためになること、など)  
だと思いました。

主人公 / スンダルさんは、インドの村の古い 考え方 / 習慣 / やり方 を一人で変えようとしています。もし私なら、  
反対されるのがこわい / 一人で何かやるのは心細い / 自分じゃない誰かがやってくれないかな と思いました。

主人公 / スンダルさんは、「女の子が生まれてよろこばれ、しあわせになること」「自然を大切にすること」  
「村がゆたかになること」を同時にかいけつしようとしてしました。私は  
だと思いました / 考えました。

そしてじっさいに村がゆたかになって、私は だと思いました。

この本をよむ前は、「男の子と女の子とが同じ / 女の子が生まれてもよろこばれない / 幼い女の子が結婚させ  
られる こと」について、

だと思いました / 考えました / ショックを受けました。

でも主人公 / スンダルさんの話をよんで と言うことを知って  
だと思いました。

これからは男の子と女の子が同じように学び、はたらけるということについて、  
考えたいと思います / 思い出したいと思います。

そして、これから 主人公 / スンダルさん のような考えの / 行動する人たちが増えて、もっと  
になったらいいなと思いました。